➡ 「ごみ」は、分別区分ごとに分けて指定日に出しましょう。

エステート大通管理組合ニュース

2020年１０月２０日(火)　№２９　発行者：エステート大通管理組合

【消防特集】　ホームページ http://est18s.kei1.org/

消防訓練を実施しました

火災のトップは中央区、特にこんろ火災要注意

エステート大通管理組合は１０月１２日(月)午前１０時３０分、火災非常ベルのもと消防訓練を開始しました。訓練は、マンション管理者の管理権原者の義務（消防法第８条第１項）であり、また防火管理者となる担当理事の責務（消防法施行令第３条の２）になります。その中で消防計画を作成し、定期的に各訓練を実施することになります。当マンションは毎年１度、消防訓練を実施しています。

マンション前での消火器訓練

いざ!!に備え、防火訓練

今回は、火災非常ベルの確認と消火器の実施訓練を行い、役員と当日の参加者によって、消火のための操作方法を学びました(写真)。消火器は使用する消火薬剤や薬剤の放射方式などの形態により、いくつかに分類されていますが、当日の訓練では水を使った蓄圧による操作を実施しました。

当マンション内にも消防法により、一定の防火対象物には消火器の設置が義務付けられています。基準は建築物の種類、面積などによります。階ごとに、階各部分から消火器への歩行距離が20m になるようにし（大型消火器の場合は30m)、「消火器」と表示した標識を設置することになっています。

消火器の使用もいざの時に焦ったりして上手に使えないこともありますので、定期的な消防訓練において慣れておくことが大切です。

市内火災年400件、死者11件に

消防訓練は約２０分ほどで終了しました。その後は、消防に関する懇親会を開き、そこでは札幌市内の火災状況を把握、火災の怖さとその予防をあらためて確認をしたところです。

札幌市内の昨年１年間の火災件数は４０７件、前年比較で２８件減少しています。それでも１日当たり１．１件の火災となります。火災の傾向は５年前の２０１５年は５４６件と昨年より約１４０件多く、この５年間の火災傾向は毎年減少してきています。

火災の怖いところは死傷者が伴うことです。昨年は１１人が亡くなっており、前年より１９人減少しています。負傷者は６３人ですが、前年比で５７人の減少です。

死亡者の多くは逃げ遅れで、そのうち８人が高齢者となっています。消防訓練はこうした死傷者を出さないことにもつながりますので、年１度の訓練といえども重要な取り組みといえます。

▶火災による死傷者のうち、高齢者の占める割合が高くなっています。高齢者等を守るため、みんなで協力しましょう。

年間火災のトップが中央区

昨年の火災区別発生件数では、中央区が６９件と最も多く、次いで東区の６４件、北区５６件となっています。最も少ないのは１０件だった清田区です。２０１６年の中央区は１００件の火災が起こり、それ以降は減少傾向にありますが、それでも中央区は最も多い区に変わりありません。火災を原因別で見てみましょう。

こんろ火災

市内の火災の原因別では、常に多いのは「こんろ火災」です。その大半は調理中に鍋を火にかけたままその場を離れたことによる発生です。ガスを使わないＩＨヒーターなので大丈夫と思われる方もいますが、そんなことありません。例えば「天ぷら油の過熱発火」はＩＨでも起こっています。こんろから離れるときは必ず火を消しましょう。それがなによりも防火対策です。

たばこ火災

火災による死者の発生率が高いのは「たばこ火災」です。喫煙者は、吸い殻の不始末や火種の落下、歩きたばこや寝たばこなどによる不注意には十二分に気を付けてください。中には、寝たばこで寝てしまったまま一酸化炭素中毒で動けなくなり、死亡事故につながるケースも多いと消防局は注意喚起しています。特にマンション共用部での歩きたばこはダメです。館内はオイル管の露出やガス管などが入り組んでおり、火元があるだけで危険ですので絶対にダメです。入居者の生死の問題になります。

ストーブ火災

万が一火災になると被害が大きいのは「ストーブ火災」です。これからのシーズンに欠かせないのがストーブです。消防局によると、ストーブ火災の多くは、ストーブの上方や周囲のモノが落下･接触だといいます。家具や布団などの燃えやすいモノがストーブの輻射熱により発火していると指摘しています。対策は、ストーブの周りに燃えやすいモノを置かない、上方に洗濯物を干さない、外出や寝るときは必ず火を消すことです。また、ストーブの使用頻度が高まるこの時期、ストーブの異常サインや兆候があった場合は、ストーブ整備の専門業者に点検整備を行ってください。大事にならない前の仕業点検は重要です。

電気火災

中央区でこの４年間連続して多いのが「電気火災」です。古くなった電気コードを使っているとショートや断線などによる発熱や、プラグにたまったほこりなどが原因で火災が発生しています。特に長期間差し込んだままのコンセントとプラグの間にたまったほこりに水分が付着して、プラグ間で放電が繰り返され、樹脂部分が徐々に炭化することで発火、これがトラッキング現象(写真)といわれるものです。そうした火災が多くなっています。対策は、コンセントの周りは定期的に清掃すること、電気コードを束ねない、上に重いモノをのせない、過度なタコ足配線はしないこと。これを機会に一度点検してみたらいかがでしょうか。

放火火災

最後になりますが、「放火火災」がここ３年間では各年５０件ほど発生しています。それ以前は１００件近くなっていました。これは犯罪です。消防局によると、放火犯にとって「家の周りは放火火災の危険がいっぱいある」といいます。

当マンションでも再三お願いしている１階郵便受けの「ボックスからはみ出した郵便物」の整理整とんです。ほかにも「たまっている新聞など」「収集日以外に出されたごみ」などは、放火されやすいです。

放火による火災は、深夜に人目を避けて、無作為･発作的に行われます。マンションの周りや廊下など共用部分にモノを置かない、「放火されない・させない」とした環境づくりは大切であり、これらは入居者が気を付けることで対応がとれます。

快適で安全・安心できるマンションをみんなで築きましょう。